

## ○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

議長の登壇の許可が出ましたので、18番大渡幸雄の一般質問をただいまより開始いたします。20番議員の元気のいい一般質問の後は、なかなか私がおとなしいもんですから、やりにくく感じております。

1年間は早いもので、2009年12月、もうあと二十数日となりました。最近の話題といたしましては、新型インフルエンザが県内、市内で猛威を奮っているところでございます。（資料を示す）きょうの新聞にありましたように、着色部分が武雄市内の小・中学校の学級閉鎖及び学年閉鎖でございます。なかなか終息を見ないというのが現状じゃなかろうかと思っております。インフルエンザにかかられた方、一日でも早い回復をお祈りするところでございます。もっと明るい話題があってもよいと思われる方は、私を含め、皆さん方ではないでしょうか。

では早速、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

まず、第1項目めに、私たち武雄市は3年9カ月前に旧武雄市、旧北方町、旧山内町が合併し、5万3,000人の新しい武雄市が誕生いたしました。その初代の市長として現在の市長がおられるわけでございます。その4年弱の間、市長はいろんな思いもあられたと思います。よかったこと、また悪かったこと、またやり残したこと、それを個々に検証していこうと思っておりますので、まず1番目に、市長の思いをお聞かせいただければと思います。

## ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

武雄市民の皆さんのおかげで、最年少市長として36歳という若さで市長に就任をさせていただきました。その前のことに思いをいたすと、私は地方自治、地方行政を預かる立場にありました。そのときに、そういった目で武雄を見たときに、何と元気がないことかと。それともう1つが、全然武雄という名前の届いてこんやったわけですね。我々東京にいる者、私はあと大阪にもおりましたけれども、なかなか届いてこなかった。それを私が市長になって、これは市民の皆さんの、あるいは議会のお力をかりて何とか知名度の向上を図る、これが私は武雄の元気再生につながるという確信を持って今までの市政を運営してまいりました。

確かに私は今ワンマンだと言われております。例えば、ドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」の誘致であるとか、レモングラスであるとか、イノシシであるとか、着想の段階、企画の段階では、私は最年少市長として肩に力が入っていたかもしれません。それは私の人間的な未熟さだと思っております。しかし、私は常々思うのは、行政、なかんずくそういった政策を行うときには仲間が必要であります。したがって、私は議会の皆様、多くの市民の皆様たちに説得をしてまいりました。そして、納得をなるべくしていただくということで、私はその若さを生かして、いろんなところに足を運びました。私に対する批判として、人の話

を聞かないということもあったかと思えます。それは甘受をいたしたいと思えますけれども、極力私は皆さんの意見を聞きながら、市民病院をどうすべきなのか、あるいは武雄市政をどうしたらいいのかということ、本当に夜も眠れないぐらいに悩み、苦しみ、私はこの3年9カ月、市長という職に当たってまいりました。

私は思います。今思うに、本当に私は幸せだったと思うのは、議会の皆様たちの本当に温かいお力、御支援があったからこそ、樋渡市政が、あるいは武雄新市政がこれだけの私は外から高い評価をいただいていると思っております。それはとりもなおさず、市民一人一人の皆さんたちが何とかせんばいかん、武雄を何とか誇りに思おうというお力があって、オール武雄に今私はなりつつあると思っております。

今、確かに肩に力が入り過ぎて、電池でいうと、直列になっていたかもしれません。しかし、大きく変わったのは、ちょうど去年、市民病院のリコールに伴う選挙を経てから、私自身も変わりました。そして、やっぱり自分の悪いところは直していこうと。あるいは人のいいところはきちんと取り入れていこうという思いをさらに強くし、今、新聞各社が、あるコラムに出ました、西日本新聞に出ましたけれども、今、武雄市政は直列型から並列型になっていると。私も、ワン・オブ・ワン、ワンマンではなくて、ワン・オブ・ゼムになっているという、私はうれしい評価をいただいています。

したがって、今、市民の皆さんたち一人一人が武雄市をこうしよう、ああしようという動きが、恐らく私が市長になる前と比べて100倍以上になっていると思えます。これは私自身率直にそのように思っておりますので、今の武雄のこの動き、佐賀県知事から「武雄は元気の見本である、お手本にしなきゃいけない」ということをこの前の武雄高架の式典のときにいみじくもおっしゃいました。私はその思いを重く受けとめて、さらに、今までの市政運営にいいところはさらに取り入れ、直すところは直して、市民の皆さんのためにやっしていこうと思っております。

そういった中で、本当に重ねてで申し上げますけれども、本当に私、いろんな誹謗中傷もあります。ありますが、ただ、私が思うのは、いつか市民は評価をしていただくと。今、反対をされている方々でもきっと評価をしていただくとという信念に基づいて市政運営をしています。そういった中で、私自身、多聞第一、聞くべきところは聞きながら市政運営を引き続き担ってまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

確かに市長の思いというのは、私個人が見ていても、その意気込みは確かに感じます。先ほど言いましたワンマン市政云々と。問題を提起する、起爆の「起」ですね、起こすというのは、やっぱり民間会社でいけば社長、トップの考え、それから役員の考え、それと社員の

考えというのが一致しなくては、企業運営も成り立たないというふうに私も思っております。市長も武雄産業株式会社代表取締役という位置づけでやっておられると思っております。知名度の向上、これは市長がよく、早稲田でしたかね、「タケオって知っていますか」、お一人様だけタケオって知っています。それはカンボジアのタケオ州でした。そういうふうにして、一から市長が歩んできたこと、武雄の知名度アップ、そのことに右に、左に、東に、西に、上に、下にと、奔走されたことは私も認めているところでございます。本当によくここまで武雄の知名度が上がったなというふうに思っております。

テレビの誘致、また、それに伴って、ちょっと語弊があると申しわけございませんけれども、お年寄りの、恐らく日本で一番平均年齢の高いコーラスグループも誕生したというふうなこと、またレモングラス、イノシシ、一から始めてブランド化に結びつける、この思いはきょうの一般質問の中でもありましたので重複しますが、まさにこういった産業をブランド化していく、また、マイナスをプラスに変えていくという姿勢は、もう至るところに私は出てきているというふうに思っております。

次の質問に移りますが、その中で市長に立候補された4年前に、具約42ということを一冊の冊子にまとめられ、ホームページ上にも載せられております。近々の、一番近いところでの達成度でもわかれば、お聞かせいただきたいというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

御答弁申し上げます。

これは政策部の企画担当の取りまとめた数字であります。平成18年度から20年度までということで78.7%の達成率があるという報告を受けております。したがって、今、直近では3本の大楠の活用については、先日、発起人会として、古きよき武雄の文化、歴史を再発見する協議会を立ち上げてまいりましたので、そういったことを考えると、今80%は超しているのではないかなというふうに思っております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番大渡議員

**○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕**

ほぼ8割方の達成度ということは、本当に頑張っていたものだというふうに敬意を表したいと思えます。

次に行きます。本年9月の定例会一般質問の折に、次期の出馬表明をなされました。俗に言う、上がったときの暁はとかいろいろありますが、ここではちょっと言いにくいかわかりませんが、それに対してのネクストに挑戦するときの思いをお聞かせいただければ

と思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市長になってこの3年半で、少なくとも1万件の御自宅、あるいは地区回りをさせていただいて、やはりリーマンショック以降、本当に市民の皆様方の生活が落ち込んでいると、あるいは企業活動が本当に冷え込んでいるというのを本当に実感として受けとめました。

したがって、私といたしましては、次に市民の負託を得ることができるならば、生活者第一、これを掲げていきたいと思っております。生活者第一というのは、私は1つは、地域所得の向上であると思っております。そして、私は仏教用語で好きなのは、土徳、土の徳という言葉があります。やはり文化、歴史を武雄の今生きている、生を受けている人たちが本当に財産として、それを再認識し、それを発見し、それを後世につなげていくという思いから、土徳の発見という精神的なものを進めてまいる必要があるだろうと思っております。

具体的に少しだけ申し上げますと、武雄はチャンスだと思っております。それはなぜかというと、やはり病院であります。病院が新たに装いを変えてでき上がる。これは他の自治体から本当にうらやましいというふうに言われております。これをぜひ皆様方の所得の向上、そして、安全、安心のかなめとして、その病院を皆さんの宝物として活用をすべく、私ども行政としても、いろんな知恵を振り絞ってまいりたいと思っております。私はこれを1つの契機として、農業振興、観光振興、あるいは産業振興に波及をしていく。

もう1つが、さきの答弁でもお答えいたしましたけれども、今度、工業団地がまたできます。そこで、それがまた農業振興、観光振興につながっていく。今までともすれば、行政の悪いところとして、産業振興は産業振興で考えましょう、あるいは農業振興は農業振興で考えましょう、観光振興は観光振興で考えましょうという縦割りで考えていたので、総体的な効果がなかなか及ばず、これは武雄だけじゃありません、オールジャパンで見たときもそうなんですけれども、波及効果がいかに出るか。ですので、例えば、医療であれば、医療観光という分野を開拓しようと思っているんですね。医療観光がいけば、今度はスポーツの振興にもつながります。医療観光といえ、そこで食べる、あるいはやすということ、農業振興にもつながっていきます。だから、そういうことをして、相乗効果が及ぶように、私は武雄市の振興に努めてまいりたいと。

ですので、私は、ワンマンではなくて、リーダーシップを発揮しながら、皆様方の意見を引き寄せて、新たな武雄市づくりをしてまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

思いも十分聞かせていただきました。特に市民病院問題で揺れているときに、私の友人、福岡にいる友人なんですけれども、「どがんしようや」「ぼちぼちしよっばい。武雄ちょっと太か問題の今あってね」「何や」「病院ば民間移譲にするような方法を今とっているんやけど」「どこの来っと」「福岡のもん」「あがんよかところの来てくんなら、武雄は御の字やんけ」というふうな福岡の友人からも聞いております。それを起爆剤とし、もととし、いろんな振興策を市長は考えておられるようですので、一緒になって頑張っていきたいというふうに思っております。

また、今、若者たちも、実現すれば大変なことだと思うんですけれども、長崎、広島へのオリンピック招致活動、これは若い者が一生懸命やってきてくれております。機運が上がっているということはいいことだなと思います。それも観光振興につながることであって、経済効果は大になるんじゃないかなろうかというふうに思います。

本当に今、日本は冷え切って、本当に申し上げにくいんですけれども、都会になればホームレスとか、いろんな方もいらっしゃると思います。そういった方が救われるような、武雄からでも発信していくようなまちづくりを一緒になってやっていきたいというふうに思います。

次に、がんについて、がん撲滅についてお尋ねをいたします。

せんだって、皆様も御承知と思いますけれども、11月3日、がん撲滅推進市民大会というのが武雄文化会館でありました。僕も参加をいたしました。その中で基調講演として、東京大学医学部の中川准教授による「ガンを知らなきヤソン」という、これは市民の皆様も行かれたと思います。これがありました。ここで私もがんに対しての認識が変わりました。やっぱりがんというのは何か向こうにあるような病気で、がんに対しての見識もなく、6人のパネラー、市長ももちろんでしたけれども、6人のパネラーの一人が、「あの人、盲腸で入院しとんさあもんの」とは言いますけれども、「あの人、がんでばい」というふうになると。まさに私もそういうふうに思っていました。ですから、日本一がんのない武雄市をつくるためには、本当にいい大会だったというふうに思います。

当然、私もこの推進市民大会実行委員会のメンバーでもありましたし、本当に身近な病気と。2人に1人はがんというふうなことも先生がおっしゃいました。そういうことで、このがん撲滅に対し、私も認識を改めました。

そこで、通告をしておりましたが、市町村別に見たがん検診の受診率、皆様お手元にもあると思いますが、これを一通り御説明いただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

（パネルを示す）市町村別に区別する資料で一番新しいのが18年度でございます、議員

の皆様にもお配りしていると思いますけれども、このパネルの向かって左から、胃がんが受診率が14.3%、県で12位、肺がんが15.0%、県内で17位、大腸がんが14%で15位、子宮がんが落ちまして15.2%で19位、乳がんが19.9%で9位ということで、平均を上回っているのは乳がんのみということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

資料をいただきまして、今、平均を上回っているのは乳がんのみということですので、胃がんも若干上回っているんじゃないかなというふうに思います。

そこで、肺がん、大腸がん、子宮がん、これは全国平均、また、佐賀県の平均をも下回っております。これは何か原因があるんですか。何か調査されていますか。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

従来は、前は個人通知等は差し上げておりましたけれども、総合健診ということになりましたので、通知を出すと、総合健診はさばき切らないということで多分通知を差し上げていないんじゃないかと思えます。

それから、特に平成20年度から特定健診になりまして、保険者の健康診断、健診ということになりましたので、社会保険の方は健康診断をしております。そのときに一緒ががん検診をしておりましたけれども、がん検診は従来どおり受けられますけれども、総合健診の中で通知が行っておりませんので、その分で若干この2年間減ってきたんじゃないかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

通知がないから云々といって、今からがん撲滅日本一のまちを目指そうと言っているんですよ。何かそれに、じゃ、受診率を上げる、私が思っているのは受診率、検診を受けられて早期発見すれば大概治るというのを聞いております。ですから、これじゃ余りにも低いんじゃないかなと思っておりますので、再度これを今度上げるためにはどういう施策があるか、お答えいただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

今年度は地域活性化・経済対策臨時交付金でがん撲滅ということで、この前の大会、それ

から、前立腺がんの検診ですね、それから、土曜、日曜の検診ということで、そういうふうに取り組んでおります。また、11月より、女性特有がんですね、これについては取り組んでおりますので、これをなるべく継続したいとは思っております。こういう受診をですね。これを来年度の予算に反映されたいんじゃないかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

私も、先ほど冒頭申しましたように、がんというのは余りにも遠い病気——遠い病気ってちょっと表現悪いんですけども、身近に感じておりませんでした。いろいろ調べていく中にいろんなことがわかってきました。

まず、早期発見、早期治療、これが一番がんの予防になるんじゃないかならうかと思っております。それと、自覚症状が早期にはないということで、もし、自覚症状が出てきたときにはもうアウトに近いと。これで皆さん怖がっておられるんじゃないかならうかなど。私も含めてそうなんですけれども。それとか、1センチ大きくなるのに10年ぐらいかかっている。あとは2センチ、3センチになるのには、もう倍々で行きますので、あっという間に進行して、手おくれになってしまうと。それとか、中川先生の話では、2人に1人はがんにかかると。3人に1人はがんで死ぬと。その中の1人になったらがんがんがんとなるというふうなことだろうかと思います。特に一番言いたいのは、がんは特別な病気ではないんだということで、先ほど言いましたように、盲腸とか、高血圧、糖尿病いろいろ病気ありますけれども、成人病ありますけれども、それと同じように身近にある病気だというのは今回わかりました。ですから、今回取り上げて、皆さんにお知らせをして、1人でも多くの方の検診を、私も含めてなんですけれども、検診をしていただきたいというふうに思うわけです。

今、佐賀県では重粒子線がん治療ですかね、これが保険対応じゃない、要するに高度医療ということで数百万円、二、三百万円かかるというふうなことを聞いております。早期発見をすれば、病気も治るし、お金も少なくて済むというふうなことでございます。

がんに対してのもろもろお話もいたしましたが、市長はどう思っておられるのか、コメントをよかったですらお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も議員と同じで、がんというと怖い病気だと思っておりましたけれども、さきのがん撲滅の推進大会で中川恵一先生の東大の先生の話聞いて、がんは身近な問題、がんもある意味体の一部だという認識を得ることができました。

そして、それを踏まえて、やはりこれは欧米では中学校でがんの教育が行われていると。

それは先ほど申し上げたように、がんも体の一部という認識がありますので、これは演告でも申し上げましたけれども、事、来年の2月を目途に中学生を対象にして、がんを中心とした体の教育を中川恵一先生御自身がやっていただくと。それともう1つ、学校の先生にぜひこれは分けて聞いていただくということで、今、教育委員会を中心として準備が進められております。

そしてもう1つ、私が非常に気になったというか、認識を改めたのは、去年のリコールに伴う選挙のときに、医療を本当に勉強させていただきました。そのときにがんのことについてもさまざまな人から話を聞いて、ようやく自分の中で形づくってきたのは、がんは、ある意味、生活習慣と予防だということ、これは中川先生もおっしゃっていましたが、そういう面からすると、せっかく今度新しい新武雄病院ができますので、ぜひがんにならないようにするような食事の講座であるとか、あるいは料理の講座であるとか、生活に根差した、がんになりにくくするための体質も含めて、生活習慣も含めて、そういう講座を積極的に開設するように、今、池友会グループには指示を出しております。

ですので、本当に我々もそうならないようにするために、あるいはなつたときにどうすればいいかということも含めて、それは医療面のアプローチと、もう1つは、先ほど話も出ましたけれども、なるべく検査に行っていただくために、これは松尾陽輔議員から習いましたけれども、先進地では80%から90%の受診率があるわけですね。それを見ていると、やはり各地のリーダーの方、区長さんなのか、民生委員さんなのか、それはいろいろあると思いますけれども、一緒に行こうと、検診に行こうと、そういう市民運動をしていく必要があるだろうと思っておりますので、これも多聞第一、医師会の皆様方、そして、議会の皆様方、市民の皆様方から広く意見を聞きながら、がんの撲滅のための、武雄が日本一になるように運動を応援したいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

ありがとうございました。やっぱり今言われました、がんが少ないところは受診率が80%もあると。これは私も初めて聞きましたけれども、そんなにも高く皆様方の、市民でしょうか、町民の方でしょうか、認識が確立されているんだなというふうに思います。これ見ただけで、武雄市は20%行っていないんですね、個別に見ても。みんなで検診に行くように、何らかの方法をとっていかなきゃいけないと思います。

そこで、何か前立腺がんに対しては簡単にできますよというようなことをちょっと聞いたんですけども、その方法等をお知らせ願えればと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長



**○國井くらし部長〔登壇〕**

前立腺がんにつきましては、一応血液検査ですね、血液をとって、その中の項目で前立腺がんを発見するというような形をとっております。現在、行っておりますけれども、大体要精密者が8%ぐらい出ております。その中で重篤な方も発見されて入院されておりますので、その効果は上がっていると思いますので、まだ来年の3月までありますので、進めていきたいと思っております。

それから、医師会の協力によって、週2回医師会でも受け付けております。それから、20人以上の集団につきましては企業、三夜待ち仲間に限らず、出張で検診をするということになっておりますので、これにつきましては、一応電話を、医師会に予約していただければできます。一応300円でできますので、安い検診で自分の体を守ってもらいたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番大渡議員

**○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕**

そういうのを大いに利用していただいて、300円で済むことなら安心もできるかと思えます。しかし、これで早期発見なら、今度また後の方法もあるということですので。

何か補助みたいなものもありませんでしたかね、女性の。お尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

國井くらし部長

**○國井くらし部長〔登壇〕**

女性の場合は子宮頸がんですね、これは医療機関ですれば5,000円ちょっとかかります。集団ですけれども2,000円ほどかかりますけれども、今回は特に600円でできるようにしておりますので、やはり受けていただきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番大渡議員

**○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕**

女性も子宮頸がんは600円でできるというふうなことなので、皆様方受けていただきたいというふうに思います。プライバシー等で個別もできるんですね。そういうふうで、がんに対しては本当に身近な病気ということにとらえてほしいと思います。早期発見すれば、早く治るというのがもう結論だと思います。ということは検診を受けると。その方法も今後徐々に考えていきたいというふうに思っております。

あとは4番議員に明日バトンタッチいたしますので、よろしく願いをいたします。

次に、本日の最終バッターで、最終項目になりますので、よろしく願いいたします。

さきの8月の総選挙によりまして、政権が交代したわけでございます。いろんな面で新政

権は苦勞もなされていると思いますけれども、本当ここまでやっていいのかなというふうなこともテレビ、新聞等を通じて入ってくるわけでございます。

たまたま東京に行きまして、民主政権になってから国会のほうにちょっとお邪魔をさせていただき、衆議院の予算委員会を5分程度見てきました。かなり傍聴者の方が並んでおられて、もう5分で傍聴席を交代してくださいと。その中で、何せ傍聴者が多くて、何をやっているのかわからなかったんですけど、今までの雰囲気とは違うなというふうな雰囲気を感じてきました。

そこで、政権交代について、本市への影響はということでお尋ねを差し上げておりますが、まず第1点、市長、事業仕分け、あの雰囲気を見られて、どうお感じになりましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

率直に言って、事業仕分けそのものは、これはいいなと思いましたがね。自民党ももっと早くやっていたらよかったのかなというぐらいによかった。これは何を言いたいかというと、実は事業仕分けみたいなことは、私も昔、国家公務員でありましたので、例えば、財務省であるとか、国会でああいう議論ってよくやるんですね。あの仕分け人が国会議員になっているだけなんです。ですので、それは本当にやります。それをオープンにするか、しないかだけの違いが、今回、あの民主党政権の仕分けが浮揚につながったというふうに思っておりますので、あの仕分け自体はパフォーマンスとしては最高のものだったというふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

18番大渡議員

○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕

そうでしたか。ただ、僕らが知らないだけです。前の政権のときはですね。ああ、そうですか。

いや、私が感じたのは、蓮舫さんあたりが1時間ぐらいで、はい、これは削減とか、縮減とか、あんなのでいいかなと。内容はわかりませんが、しかし、私はそれを見てそういうふう感じたわけでございます。特に事業仕分けの対象になられたところなんかは本当に大変なところもあると思います。特に八ツ場ダムなんかですね。5つの県ですかね、またがって。知事さんあたりがやめてくれよと、もとに戻してくれよと、ああいう気持ちもわからないことはないんですけども、やっぱり見方によっては不要ということになるのかなというふうに思っています。

そこで、本市への影響をお尋ねしていきます。

今までのやり方と変わったり、また何か、例えば、今までの計画が、うちも対象になった

りというのがありますでしょうか。まず政策部のほうからお願いをしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭政策部長

**○大庭政策部長〔登壇〕**

お答えいたします。

今の段階で具体的なことは見えておりませんので、ただ、言えますのは、民主党のマニフェストを見てみますと、その中には一括交付金の支給とか、子育て手当、児童扶養手当の見直し、後期高齢者医療制度の廃止、公務員制度の抜本見直し等々、相当の項目が上げられております。これらの制度が見直しされるとしますと、具体的決定には至っておりませんが、これらの制度改正に伴いまして、条例、補助金等交付要綱も含めましてでございますけれども、これらの制定、改廃、各種計画等の見直し、それから、予算編成等についても見直しが必要になるというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番大渡議員

**○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕**

そうですね。見えてこないというのが私も現実だとは思っております。ただ、私も含め、市民の皆様が本当に民主党にかわって、政権交代をして、何か武雄に影響のあつとあつとやなかやという考えもあられるかなというふうに思っております。

そこで、本当に個々には出てこないと思っているんですけども、今のところ見えてこないとか、そういうふうに影響があるかわからないということだけでも、市民のほうにお知らせをすればと思ひまして取り上げたわけでございます。

市長のほうで何かコメントあれば、お願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

民主党政権にかわる前後から、大分民主党の議員、あるいは議員候補者と話をしました。やはり2つ我々にとってダメージを受けるなと思ったのが、1つは、公共事業費の20%ずつの削減です。今まで、例えば、自由民主党であれば、20%削減というのはあったんですね。小泉さんのときでも十数%の削減でした。しかし、民主党がおっしゃっているのは、20%ずつの削減。これはどうなるかという、例えば、100億円あったのが今度80億円。ここでとまるわけじゃないんですね。80億円を基準にして、また、20%削減する。そしたら、計算上だと、七、八年すると、ゼロになっちゃうんですね。ですので、公共事業費の削減というのが物すごくきいてくると思っています。

それともう1点が、これは民主党の皆さんたちがよく非公式におっしゃっておられるのが、

もう道州制はせんもんねということはおっしゃっています。道州制はしない。あれは自民党の金看板だったわけですね、道州制というのは。そのかわり自治体を、やはりこれは小沢一郎さんの持論だと伺いましたけれども、300ぐらいに再編をする必要性があるなど。これで自治体の無駄であるとか、無理を何とか捻出しようということは、民主党の結構、私と同期の衆議院議員がおっしゃっている言葉です。これはどういうことかということ、もともと3,300自治体があったわけですね。これが今回の平成の大合併で1,800になりました。1,800を300にするということになれば、佐賀県は、今、10市10町、20自治体あります。そうなってくると、もう2つか、3つか、4つでいいわけですね、佐賀県は。ですので、しかも、これは民主党は官僚出身が多うございますので、いや、これは強制合併するような法律をつくればいいのではないかという議論もあるというふう聞いております、法律至上主義ですので。そうなってくると、好むと好まざるとにかかわらず、合併ということがなるというふうに思われます。そうなってきた場合に、じゃ、武雄はどういうふうにして生き延びるかということになると、これはやっぱり今の武雄で踏ん張らなきゃいけないと、頑張らなきゃいけないということでない、もし杵藤地区が合併になったとしたときに、中心が武雄に来なくなるわけですね。ひょっとすると、一番元気な市や町に行くと、我々は市として周辺部になりかねない。そういう危機感を私は非常に強く思っておりますので、今、民主党がいろいろマニフェストで掲げておりますけど、その根底にあるものに思いをいたして、そうならないように、民主党政権で耐え得るような自治体運営というのをしなきゃいけない、それは首長の仕事だと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番大渡議員

**○18番（大渡幸雄君）〔登壇〕**

それが代表取締役の市長なんですよ。やっぱり武雄丸の船長さん、それはやっぱりやってもらわにゃ困るというふうに私も思います。

政権交代での市の影響はというのを通告するときには、まだ新幹線がはっきり決まっていなかったもんですから、本当に新幹線はどうなるのかなど。あれだけ武雄市として新幹線を応援していました——していましたじゃない、今でもしています。本当に武雄から新諫早まで高架ができるのだろうか、フリーゲージトレインの開発はまだ進めるのだろうかというのがクエスチョンであったんですけども、これは続行と、満額やるということで、その思いがあって、この影響をお尋ねしていたわけです。

前段、新幹線に関しましては、同僚議員のほうで質問ありましたので、もう割愛——割愛というか、新幹線には触れませんが、本当に今後、政権交代した直後ですので、まだまだ見えてこないところが多いんじゃないかならうかと思っております。しかし、やっぱり武雄にとって必要なことは是が非でも首長を中心に執行部の皆さん、頑張っていたきたいとい

うふうに思うわけでございます。

あと都市計画とか、下水道、これも通告のときにお話もいたしておりますけれども、もう見えてこない。なるべく計画どおりに推進するというふうな考えでいるからと、じゃあ頼みますよということで私のほうもお願いしておりました。

以上をもちまして、私の質問を終わります。